

音順	方劑名	生薬構成 および製法・服用方法
	傷寒論・金匱要略条文	読み および解説・その他
きー12	芎帰膠艾湯 (膠艾湯)	<p>川芎 (辛温)・阿膠 (甘平)・甘草 (甘平) 各2g・艾葉 (辛温)・当帰 (甘温) 各3g・芍薬 (苦平) 乾地黄 (甘寒) 各4g</p> <p>上の7味を水200mlと、清酒120mlとを合わせて物の中に入れ、120mlに煮詰め、滓を去りその中に阿膠を加え、溶解して1回に40ml宛1日3回に分けて服用。治らなければ更に作って与える。</p> <p>婦人妊娠病脈証併治第二十第4条 (金匱要略)</p> <p>「師曰く婦人漏下する者有り、半産の後因て続いて下血^{すべ}都て絶えざる者有り、妊娠下血する者有り、仮令妊娠腹中痛むは胞阻と為す、膠艾湯 (芎帰膠艾湯) 之を主る。」</p> <p>より、^{すべ}因て、^{すべ}都て、^{もし}仮令、^{ほうそ}胞阻、^{つかさど}主る</p> <p>解説 師が曰われるのには、婦人でおりものがある者があり、5、6ヶ月で流産をし、その後引き続いて、下血して止まらない者あり、妊娠して血の下がる者がある。もし妊娠して、下血して腹の中が痛むのは胞阻である。それには膠艾湯 (芎帰膠艾湯) が主治する。</p> <p>胞阻とは、胞は子宮を言い、阻は妨げるの意あり、胞中の気が和せず働きが鈍って、子宮の胎の発育が阻害される。</p> <p>漏下とは、不正性器出血が続くこと。半産とは流産をいう。胞阻とは子宮の胎の生育が阻害されることをいう。</p> <p>これらの病状は、出血のため、営血衛気が損亡し、下焦の血分が鬱滞して血熱を生じたためである。</p> <p>芎帰膠艾湯は、川芎・当帰で営血衛気を補い、芍薬・甘草で営衛の元たる脾陰胃陽を助けて急迫を治め、乾地黄で下焦における血分の鬱熱を冷まし、艾葉・阿膠で血の妄行を止める。</p> <p>「方劑決定のコツ」の注釈</p> <p>芎帰膠艾湯の腹中痛は、出血のため、営血衛気が損亡し、下焦の血分が鬱滞して血熱を生じたために生ずるのである。</p> <p>当帰芍薬散の「妊娠してから腹中疝痛する」の場合は、水分の停滞があり、熱気が外に出ようとするのが水に邪魔されるために血流障害を起こして痛みを生ずるのである。</p> <p>芎帰膠艾湯 (膠艾湯) 証</p> <p>新古方薬囊によれば「婦人が妊娠中におびただしく出血があつて腹中が大いに痛む者、又はいわゆる永血といつて月経が一月を過ぎても止まらない者、此の場合は、腹は痛むこともあり、痛まないこともある共、痛む場合に用いると的中することが多い様である。」と記されている。</p>